
香音さんの一日wぱあと2

クローバー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

香音さんの一日wぱあと2

【Nコード】

N1352D

【作者名】

クローバー

【あらすじ】

香音さんの一日wのぱあと2!!一回見てください

(前書き)

これで、香音さんワールドは仮終了！
今度は、誰ワールドに……？

馬鹿なアホ少女香音は、20分遅刻して学校に着いた。

「やっと着いたあー！・・・？みんないない。」

教室に、逆立ちで入ってきた香音ははて？と首をかしげた。

「馬鹿か！香音！！もう保体始まっているぞ？」

教室奥の先生用の机に座っている サンシャイン ごと
貴田福きたふくは香音を怒鳴った。

ちなみに サンシャイン とは、てっぺんがハゲているので
つけられたあだ名である。

「先生！」

「何だ、香音」

「ハゲてます。」

「知っています。」

「おい、香音。」

「なんですか？先生。」

「すねてもいいか？」

「どうぞ。」

どうでもいい会話をするふたり。

「あー！いたいた。香音ちゃん。」

香音の相棒尋夢ひんむがやってきた。

「絶対香音の事だから欠席しないとおもったんだ」

「・・・なんで？」

嫌な予感に額に汗がながれる。

「馬鹿は風邪ひかないって」

にっこり微笑む尋夢。

その姿は悪魔にみえる。

「おい。そろそろ授業へもどれ。」

先生が怒り口調でいう。

「あ。居たんだ、サンシャイン。やっぱり影薄いなあ。」

「さっさと授業へ行け!!」

先生が怒鳴った瞬間香音と尋夢は教室を飛び出した。

+++++

休み時間***

「尋夢〜!」

香音が手招きをした。

「なに?香音。」

「サンシャインからかいにしよう」

「いーぜい」

このあと、サンシャイン・・・じゃなく先生によって
こっ तरीしぼられたのは、言うまでもない。

+ + + + + + + +

(後書き)

香音さんの一日

主役 香音

町人 ハゲのおじいさん

三歳の男の子

脇役 サンシャイン(おおおい!!by先生)

友達 尋夢

お母さん 由音ゆおん

+++++

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1352d/>

香音さんの一日wぱあと2

2010年10月11日05時49分発行